



自分で決めて動いていくこと。
大変だけれど、楽しい。

養老山脈ブルーベリー 北風と太陽 代表 森 裕子さん

もり・ゆうこ ● 26年間勤めた製菓会社を退社し、2018年から営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）による農業経営を開始。2021年、岐阜県女性農業経営アドバイザーに認定。農作業は自ら立ち上げた就労継続支援事業所の利用者とともにに行い、農福連携を実現している。

【生産物】 ブルーベリー、サカキ、ミカン
【営農地】 海津市南濃町
【農地面積】 約45a
【営農開始年】 2018年～

「ソーラーシェアリング」という新しい農業の形で、ブルーベリー農園を営む森さん。会社員を辞めて一から作り上げた農園の脇には、DIYの腕を活かして納屋をリノベーションした古民家風の休憩所。期間限定で収穫体験や、ちょっとしたカフェができる環境を整えました。

さらに現在、就労継続支援事業所を開業して、農福連携を実践中。就農から数年で次々と進化を遂げる森さんの活躍に、目が離せません。

子育てが落ち着き 会社員から農家へ転職

長く製菓会社で働いていた森さん。海津市南濃町にある夫の実家の隣で、働きながら3人の子どもを育てました。子育てが落ち着き、「この先、会社勤めを続けるのも良いけれど、何かもっと違うことをしたいな」と考えていたとき、通勤中にふと、畑の真ん中に建つソーラーパネルを目にしました。気になって調べてみると、農地にソーラーパネルを立てて発電しながら、その下で農作物を栽培する営農型太陽光発電「ソーラーシェアリング」という太陽光を農業生産と発電とで共有する取り組みがあることを知ります。県内の建設会社が設置事業を行っていることも分かりました。ちょうど義父母も高齢になり、この先義父母が管理するミカンや柿畑をどうしようかと考えていたところでした。

興味がふつと湧いてきた森さんは、実際にソーラーシェアリングに取り組む農家や建設



会社に相談。地域の気候や遮光率などから栽培可能な農産物の中で、希少性や自身の興味から「ブルーベリーを育ててみたい」という思いが固まりました。家族の応援も受け、2017年の春に会社を辞めて本格的に農家に転職。新しい生活がスタートしました。

観光農園から 出荷メインの経営へ

柿畑を整備して、ソーラーパネルを設置。その下にポットで育てるブルーベリーの木を置いて、栽培を始めました。ブルーベリーは順調に成長。さらに観光農園として人々に楽しんでもらう展開を考えて、農地横にあった古い納屋の改装にも取り組みました。かつて養蚕に使用されていた納屋。高い天井や梁は残しつつ、大部分は森さんがDIYの腕を振るい、一部は大工に依頼して、新たに珪藻土を塗るなど工夫し、古民家風のステキな休憩所が完成。ブルーベリー狩りをしたお客さんが休憩場所に利用したり、一時はカフェ営業にも挑戦しました。

しかし2、3年続けていくと、新たな問題が。「おいしそうな実がなっていない、お客さんが来ない間に落ちてしまう。もったいなくて」。今ではブルーベリー狩りの日を限定かつ予約制に。それ以外は実を収穫して出荷する経営スタイルに切り替えることで、農園に来てもらうことと、おいしい実を届けることの両方を実現しま

した。出荷先は、近隣のショッピングモールの他、名古屋や関東圏に出すことも。「ロスが減り、育てた実がちゃんとお客さんのもとに届くと思うと、もっとおいしいものを作りたい、とモチベーションもアップした」と語ります。

サカキ栽培や 農福連携もスタート

経営の拡大と安定化を見据えて、森さんはブルーベリーの他に、山間部でサカキを育てて出荷しています。サカキを選んだ理由は、獣害のリスクが少ないことや、収穫時期が長いこと、国産は希少で需要があること。こちらでもソーラーシェアリングを活用しながら、「濃州本榎」と名付けてブランド化を進めています。また、法人を立ち上げて「農福連携」にも挑戦するなど、就農から7年のうちにさまざまな変容を遂げてきました。

こうした森さんの幅広い経営展開には、長年の会社勤めで培われた、PC技術やコスト管理、他企業との関係構築といったスキルも役立ちました。「自分で決めて動く農業は、私に合っていました。作ったものが売れていくことを実感できるのもうれしい。大変なことももちろんあるけれど、楽しいです」と笑顔を見せてくれました。



株式会社アフコム
就労継続支援B型事業所リープ
事業所／岐阜市中西郷5-12 シャルプⅡ203
本社／岐阜市久保見町79-1

事業継続のため就労継続支援事業所を開設

農業を長く継続していくためのより良い形を模索した末、2022年に就労継続支援事業所を運営する株式会社アフコムを立ち上げ、事業所の利用者とともに農作業を行うことにしました。同社が運営する「就労継続支援B型事業所リープ」（岐阜市）の利用者は15人ほどで、主な活動内容はブルーベリーとサカキ、事業所付近で栽培する農作物の栽培や収穫。その他、周辺の農家から声をかけられて収穫などの作業を手伝いに行くこともあります。新しい「農福連携」の形として注目を集めています。

養老山脈ブルーベリー 北風と太陽の紹介

のどかな風景に溶け込む農園には、義父母から受け継ぎ、森さんが自然農法で栽培を続ける地元の特産品「南濃みかん」の木も立ち並びます。

ブルーベリー狩りは例年7～8月の数日間に限って実施。完全予約制で、ソーラーパネルがつくる日陰のもと、少人数でゆっくりと楽しむことができます。通常はショッピングモールなどに出荷し、シーズンが明けた後もジャムなどをマルシェで販売することもあります。

養老山脈ブルーベリー 北風と太陽
海津市南濃町安江 1072 TEL.050-5373-3809

